

シルバーミニ情報

第242号

令和 2年
9月11日

編集・発行／公益社団法人 大船渡市シルバー人材センター 広報部会

〒022-0003 大船渡市盛町字中道下 1-4 TEL:26-5124 FAX:27-8271 <http://www.sjc.jp/ohfunato/>

■今年の「シルバー生き生き文化祭」は、中止とします。

今年も11月に「シルバー生き生き文化祭」を開催する予定でしたが、理事会等でも検討した結果、コロナウイルス感染防止のため、残念ながら中止と決定いたしました。会員の作品展示、保育園の踊り披露、野菜やお菓子の格安販売、輪投げゲーム、芋の子汁の無料提供など、市民と会員が交流しながら、普及啓発・PRに努め楽しいひと時を過ごす予定でした。楽しみにしていた方もいると思いますが、来年開催しますのでお待ち願いたいと思います。

なお、11月上旬に事務所前にてシルバー農園で収穫した大根などを販売しますので、お待ち願います。10月のシルバーミニ情報でお知らせします。

■全体ボランティア活動を実施します。

令和2年度事業計画に基づき、全体ボランティアを実施することとしました。

つきましては、下記のとおり2か所に分かれて実施することにしましたので、参加の申し込みを地域班長さんへ連絡していただきたいと存じます。

なお、地域班長への参加の有無を10月1日(木)までに必ず連絡してください。

地域班長は参加者を取りまとめのうえ、2日までに事務局へ届けて下さるようお願いいたします。

記

1. 日時 令和2年10月7日(水) 午前9時～正午
2. 場所 リアスホール周辺 盛班・大船渡北・中・南班・末崎班
福祉の里センター周辺 赤崎班・猪川班・立根班・日頃市班・三陸班
3. 作業内容 草取・草刈・植木剪定・ゴミ拾い等

★★2か所に分かれての作業となりますので、ご確認の上、参加願います。★★

■10/7の当日が雨天の場合(小雨も含む)は、10月15日(木)9時からとします。

(この場合は、地域班長への連絡は省略して、直接、参加願います。)

★当日、熱が37度以上あったり、体調がすぐれない方はご遠慮願います。



■年会費を納入願います。

令和2年度正会員会費及び互助会費をまだ納めていない会員が数名おりますので、早急に納入願います。なお、事務所でも直接納入できます。

安全標語

安全を 守るみんなが ガードマン 大船渡中2班 富谷 英雄

■10月は「シルバー人材センター事業普及啓発促進月間」です。

今年も10月1日から10月31日までを「シルバー人材センター事業普及啓発促進月間」と定め、全国的な普及啓発活動が展開されます。

シルバー事業が広く地域に根ざし、様々な社会参加活動を通じた地域への貢献は、会員の生きがいの増進にも繋っており、シルバー人材センターの役割はますます重要となっております。

全国活動として、会員100万人達成計画も実施中であり、この期間中において、コロナウイルス感染を防止しながら、会員の皆さん一人ひとりによる口コミ運動の展開（新入会員の勧誘・就業開拓）にご協力をお願いします。

また、各地域・職群班による清掃奉仕活動・企業訪問・チラシ配布など、地域に密着してシルバー事業を図って参りますので、会員の皆さんのご理解とご協力をお願いします。

【各地区の班長さん方は相談のうえ、地域のボランティア活動を行うようお願いいたします。】

■シルバー会員がコロナ対策ボード製作

新型コロナウイルスの感染症が全世界に猛威を振るっていますが、大船渡市役所の窓口にも「コロナ対策アクリル遮へいボード」が取り付けられています。

このボードは市役所職員のデザインで、市役所庁舎環境整備業務として就業しているシルバー会員3人が市職員の協力を得て製作し、受付の各窓口に取り付けられ、大変好評を得ています。



市役所窓口にアクリル板設置

■ジグソーパズル 2000ピース完成(おゆずります)

盛1班の三浦賢舟会員が約1か月をかけて「ミコノスハーバー(ギリシャ)」のジグソーパズル2,000ピースを完成したとの投稿がありました。寸法横102cm、縦73cmでこのサイズは、今は販売されていないそうです。このパズルに挑戦したい方には、お譲りするそうなので、希望者はシルバー事務局まで連絡を。



完成したパズル

■第43回グラウンド・ゴルフ交流大会結果

9月2日(水)午前9時より、盛川河川敷公園に於いてグラウンド・ゴルフ交流大会が開催され、会員23名が参加して行われました。結果は下記のとおりです。

優勝	新沼勝雄さん(猪川1班)	55打
第2位	村上正三さん(立根1班)	58打
第3位	大和田喜洋さん(事務局)	59打



女性会員も多く参加

編集後記

◆趣味として新聞各紙に短歌、俳句、川柳を毎週投句している。新型コロナの感染拡大に伴い紙面は、コロナ関連を詠んだ作品が多く掲載されるようになった。

◆文芸作品は「今」を詠んだ方が、読者に説得力を持って訴えることができるので、これもごく当然なことだと言える。◆でも、早くコロナ禍が終息して、文芸作品から「コロナ」という言葉が消える日が訪れることを、心から待ち望んでいる。(H・T)